

越谷の未来に 「女性の視点」という選択

～副市長、市立図書館長、市職員 33 年間の経験と実績～

「女性の目線」や「女性の感性」とは、一体どういうものなのか？
それは特別なものではなく、
日々の暮らしの中で培われるごく自然な気づきや思いやりの力のことです。

①生活者としての視点

毎日の生活の中で、子育てや医療、介護や家計など、家庭や地域を取り巻く課題に常に向き合っています。だからこそ、保育園の待機児童問題や高齢者の移動手段の不足といった、暮らしに直結する課題に敏感に気づきます。こうした視点こそ、市政に欠かせない「身近な目線」です。



②きめ細やかな配慮

「安心・安全・快適」を支えるのは、小さな工夫の積み重ね。

たとえば、子どもたちが安心して通える通学路の整備や、真夏の暑さに配慮した学校環境づくり。さらに、誰もが気持ちよく使える公共施設の改善など。細やかな問題に目を向けることは暮らしの質を底上げする力になります。



③多様な立場への共感

性別・年齢・家庭状況・障害など、さまざまな立場の人々の声に耳を傾け政策に反映させます。社会は子育て家庭だけでなく、高齢者、障害のある方、ひとり暮らしの方など、多様な人々で成り立っています。全ての人を含めたまちづくり。



④協働・つなぐ力

対立や摩擦を和らげ、対話や協力を通じて合意形成を進める柔軟性を大切にします。市民活動や地元企業など、地域の力を結集してこそ、持続可能なまちづくりが実現します。例えば、異なる立場や意見の調整、市民活動や地元企業などの多様な力を結集。

